

社会科学習指導案

横浜市立南瀬谷小学校

指導者 船山 桜子

1 日 時 平成26年11月19日(水) 5校時

2 学年・組 第5学年3組 37名

3 小単元名 食料生産とわたしたちの暮らし「～考えよう わたしたちの未来の食たく～」

4 小単元目標

○国民の食生活を支えている主な食料の中には、国内の各地で生産されるものだけでなく、外国からの輸入に依存しているものもある。それらの資料を集めて、主な食料の自給率や輸入先などから、日本の食料生産の現状やこれからの食料生産・自分たちの食生活の在り方について自分なりの考えをもつことができるようにする。

5 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
我が国の食糧生産の様子に関心をもち、統計資料を調べたり、話合いで意見を提案したりするなど、意欲的に調べ・考え・表現しようとしている。 (資料の収集・活用、 発言・観察)	食生活の変化から自給率の低い我が国の問題点を明らかにし、食糧生産に必要なことや、環境を守る活動について考え、図や文章などで表現し、説明している。 (発言・分析)	写真その他の資料の活用、白地図作業などを通して必要な情報を読み取ったり、必要な資料を収集・選択したりするとともに、調べたことをノートなどにまとめている。 (資料の収集・活用の様子)	我が国の食料生産は国民生活を支えていることやこれからの食糧生産には様々な問題があることが分かっている。 (発言やノートの内容)

6 単元について

(1) 単元設定の理由

本単元は、我が国の食料生産に関する学習全体のまとめにあたる。我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色についての知識は、米、魚を生産する産地の人々の工夫や努力に関する学習をもとに考える。食料の中には、外国から輸入しているものがあることについての知識は、身近な食料が外国からの輸入に依存していることの事例を上げておくようにする。

児童は、普段何気なく食べている多くの食料が、いろいろな人の手を渡り、努力や工夫をしながら作っていることを勉強してきている。しかし、それらの工夫や努力がありながらも、ただおいしく作っているだけではなく、食料生産に関する様々な問題があることに着目し、生産者だけでなく、

消費者として食料生産に関して考えていく必要があることを理解してほしい。

また、児童にとってより身近な問題である給食の残飯や、身近な食材に目を向け、食料生産が自分たちの問題であることをしっかりと捉えられるようにする。そして、食料問題というのが何を示しているのかを知り、それに対して自分ができることは何か、自分の考えをもつことができるようにしたい。

日本の自給率については、全員が共通理解をもって話し合い活動につなげられるよう、地図・グラフ・資料を精選して活用しおさえていく。また、資料をもとに話し合いを進めていくことを意識できるようにしたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、社会科の授業の始めに「地図マニア」という、地図を読み取る時間を好んで行っている。学習に関わる地域を決め、地図から分かることを見つけ出し、発言することができる。4月から行っているため、細かいところまで気付くことができるようになってきた。その反面、資料の読み取りに対して苦手意識をもち、自分の考えをもてない児童も少なくない。様々な資料がある中で、今必要な資料がどれなのか、どの部分なのかを自分で探し出すことができず、比べたり確かめたりして考えることが少なく、学習に深まりが見られなかった。また、調べることに對しては前向きな姿勢を示すが、ノートには調べたことを写しているだけで、自分の考えを述べるまでにはなっていない。そのため、授業中も個人の発表だけの話し合いになってしまった。

本小単元の前の米の生産や漁業に関する学習を行う際に、「まなボード」の活用を試みた。グループで一つの板を囲んで、写真やグラフをのぞき込んで、真剣に疑問を述べたり、自分たちの意見を述べて書いたりする意欲的な姿が見られた。

本小単元では、発言力の多い児童だけで学習が進まないよう調べたり分かったりしたことをペアで相談する時間を設ける。また、ノートに書かれた考えにコメントをつけ、自信をもって発言できるように支援していく。

7 研究主題とのかかわり

(1) テーマに迫るための手立て

自ら学ぶ力を育てるための学習の展開 ～多様なメディアを活用した情報活用能力の育成～
--

本学級の児童は、日頃から大型テレビや OHC を使って発表をしたり、NHK for SCHOOL の動画を見たり、画面に集中して話を聞くことに對して意欲が高い。児童にとって、大型テレビを使用することは日常化しているように感じる。

また、日頃から自分の意見を発表するときには、教科書や資料集のどの資料から気付いたり、分かったり、疑問を感じたりしたのかについて話すように指導している。その際には、OHC を使って実際にその場で指し示しながら発表するように心がけてきた。OHC を使うことで、口頭で話すだけよりも、資料を使って示すことで、発表者は根拠をもって発表する力がつく。また、聞いている側も、顔を上げて相手の話に耳と目を向けるため、効果的であると感じている。

今年度は、説明する力の育成のために、A と B の資料集を使っている。年度初めに児童に社会科

の資料集の選択をさせて、2種類の資料集があることで、友達の持っていない資料を示すためにOHCを使って、指で示して伝えようとする工夫をしている。

8 指導計画 (本時3時間目/5時間中)

学習のねらい	学習活動と内容 評価規準	○教師の支援 *資料
<p>○日本の食料生産の問題について考え、学習計画を立てる。</p>	<p><u>1 食べ物はどこから【3時間】</u></p> <p>① 食料の主な産地を調べよう。 給食の献立の事例から、食料の産地を白地図に書き込み、主な産地を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国産・外国産への意識をもつ。 ・米は日本産で100%ある。 ・肉や魚は外国産が多い。 ・野菜は近くの県でとれている。 ・果物はものによって外国産がある。 ・外国から来ているものが多い。 ・食料自給率のグラフを読み取り、自給率に関する疑問などを出す。 	<p>○自分たちの食べている食べ物がどんなところからきているのか、産地をもとに白地図に表し、外国から多く輸入していることを実感できるようにする。</p> <p>*地図帳、世界白地図</p> <p>○食料自給率という用語を抑え、米は98%、国内平均39%であることを知る。</p> <p>○自給率は175カ国中日本が124位であることを知らせる。</p> <p>*食料自給率のグラフ</p> <p>○自給していない60%を外国から輸入していることを押さえる。</p>
<p>○日本や外国の食料自給率から、日本の食料生産の特徴について考える。</p> <p>【本時】</p> <p>○食料自給率「40%」という事実を受け止め、外国から多くのものを輸入すること</p>	<p>② 食料自給率が下がってきているのはなぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家や漁師をやる人の減少。 ・農家の人たちの高齢化 ・日本の農地面積が狭い。 ・輸入が増えたから。 ・輸入食品のほうが安いから。 ・他の産業が盛んになった。 ・食生活の変化 <p>③ 食料自給率「40%」は良いことなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国から輸入していることの良いところ・悪いところについて考える。(輸入されなくなったらどうなるか。) 	<p>○児童が考えることができるよう、資料を精選し配布・提示できるようにしておく。</p> <p>*食生活の変化</p> <p>*「食糧自給率を考える」本</p> <p>*日本の農地面積</p> <p>*農林水産省 HP</p> <p>*第一次・第二次・第三次産業の変化推移グラフ</p> <p>*フードマイレージ</p> <p>*世界の人口の推移グラフ</p> <p>*農業とわたしたちの暮らし (P26~P27)</p>

<p>の良さ・課題について話し合う。</p> <p>○資料を読み取って調べたことから、これからの食生活についてどんなことができるか、自分のできることについて調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国で食料不足が起こった時。 ・好きなものがたくさん食べれなくなる。 ・外国で異常気象や戦争が起きたとき。 ・環境問題（エビ） <p><u>2 これからの食生活【2時間】</u></p> <p>① 自分が食料自給率 40%を上げるためにできると思う課題について中心に調べていく。調べたことを新聞やポスターにしてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自給率を上げるためにどうするか。 ・食べものの安全についてしっかりと調べたい。 ・日本のために外国で起きている問題を減らしたい。 ・たくさん輸入しているにも関わらず、たくさん捨てていることに気付く。 ・輸入した食品をどのように扱っているのかを知り、食品ロス量も多い。 ・栄養士の話聞き、給食では安全・安心の点から産地に気を付けていることを知る。 <p>② それぞれの考えた諸問題への解決策、すべきことを発表し合い、問題意識を高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要以上に物を買ったり捨てたりしない。 ・日本の農家や漁師を増やす。 ・安全性を考えて、どこでどのように作られたかが分かるものを買うようにする。 	
--	---	--

9 本時の指導 (3時間目/5時間)

(1) 本時目標

外国から食料の輸入を多くしていることの良さや課題について、資料を基に考え、自分なりの考えをもつことができる。

主な学習活動	主な支援◎ 評価□ (☆活用する ICT 機器)
1 前時を振り返り本時の学習課題を確認する。	◎前時までの児童の話し合いの様子を把握し、自信
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>食料自給率40%は良いことなのだろうか。</p> </div>	
<p>2 資料を基に、考えたことを全体で話し合う。</p> <p>食料自給率が40%であることの良さや課題に関することを中心に考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸入するためにお金がかかっている。 ・ 人口が増えていくので、このままだと食料がなくなってしまう。 ・ 輸入が止まったら食料が確保できない。 ・ 輸入農産物に比べて国内の農産物は高い。 ・ 日本の生産者の人口、耕地が減っている。 ・ 20年後、日本の自給率はどうなっているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> * 食料自給率のグラフ * フードマイレージ * 世界の人口推移のグラフ * 「食糧自給率を考える」本 * 社会科資料集 A・B <p>☆大型テレビに自分の見せたい資料を OHC で見せ、グラフや表など具体的な資料を示しながら意見を述べられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【関】 資料から調べたことを元に自分の考えを積極的に発表しようとしている。</p> <p>【思】 食生活の変化から自給率の低い我が国の問題点を明らかにしている。</p> </div>
3 交流した意見から、これからのわたしたちはどのような食生活にしていっていいのか考える。	◎外国から輸入することの良さもあるが、課題が多く残ることに気づき、今後の自分たちの食生活について自分事として考えられるようにする。
4 今日分かったこと、感想、これから考えていきたいことをノートに書く。	◎友達の発表を聞いて感じたことや思ったこと、未来の食生活を考えたときに、このままで大丈夫なのかを考えられるようにする。